

学生が考える「子育てしやすい子どもが遊べる公共空間」の実践 長浜市「田村駅周辺空間活用事業」への提案

小林 雅彦

雨森 雅哉

抄録

長浜市「田村駅周辺空間活用事業」における「子育てしやすい子どもが遊べる公共空間」について、課題解決に向け学生の発想を活かした授業の実践に取り組んだ。フィールドワークから地域の魅力を発見し、住んでおられる方、働いておられる方、子育て中の方、指導者などの様々な立場からの意見を基に、学生一人一人がアイデアを出し合い、グループワークや調査・研究を通して主体的に考えていった。将来の仕事や地域等での子どもとのかかわりをイメージし、子育てしやすい魅力的な空間について提案した授業実践記録である。

キーワード：地域連携・子育て支援・課題発見・課題解決・ICT活用・アクティブラーニング

1. はじめに

シラバスに記載した授業の概要は以下の通りである。

長浜市が進める「田村駅周辺整備事業」の一環として、長浜市都市計画課と連携した授業で、長浜市の課題解決に貢献しながら、学習を進めていく。長浜市は人口減少対策といった課題を抱えている。この改善策の一つとして、本学が所在する長浜市南部地域を「若い世代が安心して子育てできる生活基盤を整え、定住できる環境を作っていくことが必要」と基本計画に示されている。

本学は長浜市から、この計画をさらに具体化させるべく、「田村駅周辺空間活用事業」として、この地域を利用するステークホルダーに、駅周辺の湖、河川、道路、広場、公園、緑地等の公共空間の創造や活用について意見を求められた。

本授業は、グループワークや調査・研究などを通して学修成果（到達目標）を身につけることを目的としている。そのための手段として、「子育てしやすい、子どもが遊べる公共空間」をテーマに、調査・研究に基づいた提案をまとめることを目指している。将来の仕事や地域等での子どもとのかかわりをイメージしつつ、柔軟な発想力や企画力を発揮し、若い世代にとって魅力的な空間づくりにつながる提案を期待している。

- ①授業は、1年生・2年生の混合で行い、学年間を超えたグループワークで学び合う。
- ②「田村駅周辺空間活用事業」は、3つの観点での提案を求められており、本学は「子育てしやすい、子どもが遊べる公共空間」というテーマ（課題）で、本学のみならず、チャイルドハウス田村（私立保育園）及び田村町自治会と協力しながら提案を行う。
- ③「くらしと地域」は、国文学科と子ども学科にそれぞれ開設している。各専攻で身につけた学修成果（専門知識など）を生かした観点で提案することを目指している。
- ④通年の授業で、調査・研究からイベント及びその後の検証まで年間を通して行う。

授業に関しては、1年生と2年生合同も、通期で子ども学科、国文学科両学科開設も初めての試みである。受講人数が多いので、子ども学科は、雨森と小林が、国文学科は松本副学長が担当して実施した。おおまかな進度は共通理解をし、進めていった。ここでは、主に子ども学科の授業の様子を中心に述べていきたい。

2. 授業の実際

(1) 授業のテーマについて

長浜市都市建設部都市計画課 田村駅周辺整備室 和田さんから事業についての趣旨説明をしていただいた。田村駅周辺空間創造（案）作成について、パワーポイントを使い、この授業のテーマや目的、いくつかの地域の実践事例などを紹介し、学生たちが具体的に授業に対してイメージできるようにしていただいた。

今回は、「子育てしやすい、子どもが遊べる公共空間」～田村駅周辺にとって必要な空間とは～ というテーマが提示された。いくつかの他府県での事例や令和2年9月に田村駅前広場で実施された「ひとつなぎの風」というデザインコンセプトでの事例などが紹介された。その中で、風鈴を使った「さざなみトンネル」や道路をキャンパスにして自由にお絵かきができる「おあそび駅」には、学生たちも興味を示した。

(2) フィールドワークをしてみよう

田村駅を利用している本学の学生は3割程度である。そのほとんどが学校と駅の往復で、駅の西側がどのようなになっているか、周辺がどのような状況なのかは把握できていないと考え、グループごとに1時間使ってフィールドワークを行った。

近くを通っているが、歩いて見て回ることが初めての学生も多く、琵琶湖が本当に近くにあることに驚いたり、工場や公設市場などの建物があることにも気づいたりして新鮮に感じていた。実際に歩いて、いろいろなものを見ることで、具体的なイメージができてきたように感じた。

(3) フィールドワークからのアイデアを交流する

フィールドワークの中で考えたアイデアをグループで交流した。KJ法を使って、付箋にアイデアを書き、画用紙に貼って互いの考えを交流していく。時間の関係で交流のみで終わったグループとある程度方向性が見えてきたグループに分かれた。

時間の関係といったのは、アンケートを考える活動を入れたからである。副学長から提案を受け、授業担当者が話し合い、ステークホルダーの意見を聞くことになった。目的や対象は以下のとおりである。

- ・目的：調査研究のエビデンスとして活用するためである。
- ・対象：①保育関係者、②子育て世代、③田村町、④企業の4つのターゲットを考えた。

理由は、以下のとおりである。

① 保育・幼児教育従事者

チャイルドハウスを中心に、外部から、田村周辺に住んでもらうということを鑑みれば、広く市内関係者の皆様に協力していただくことも効果的であると考え。田村駅周辺地域を「子育てしやすい空間にするためには、何が必要か？」というテーマに対して、子育てのプロである保育関係者の意見を聴くことは、学生にとっても興味深く、面白い試みだと考える。

② 保護者・子育て世代

チャイルドハウスの保護者にご協力を仰ぐとともに、市内の子育て世代に広く意見を聴くことも効果的であると考え。例えば、サンサンランド等の子育て支援施設等にご協力いただければ、広く意見を募ることも可能であると考えた。

③：田村町自治会

年齢は特に設定せずに、子育てに限らず、実際に住んでおられる方から、田村の魅力等をお伺いすれば、私たちには見えてこない、地域のポテンシャルや課題が見えてくるのではないかと考える。

④：長浜サイエンスパーク（※1）を中心とした企業



アイデアの交流

企業として発展するためにどのような空間を望むか？ 従業員が働きたくなるような魅力ある空間とは何か？ 安心安全のために何が必要か？ 等を参考にしようと考えた。

学生たちは、グループごとに担当を決め、聞いてみたいことを出し合った。授業を始めて3回目と言うこともあり、両学年とも異学年での授業になれていないこともあり、最初はぎこちなさを感じていたが、2年生は、グループワークなどを今まで経験していることもあり、リーダー的な学生がいるグループはうまく1年生をリードして話し合いを進めていくことができた。教員は、グループの様子を見ながら必要に応じてアドバイスをしていた。

以下は、授業後の学びの感想や次の課題である。

- ・田村駅周辺には、たくさん良いところがあるのに、あまり活かされていないことが結構うきばりになっていることに気づきました。班の人がアンケートの付箋に書いた中で多かったのは、「商業施設が少なく不便ではないか。」ということです。今回は、ここから実現するにはどう動いていくべきかを考えていきたいです。(1年)
- ・具体的にどのようなイベントや施設をつくるべきなのかを、これから考えていくために必要な情報が何かをしっかりと考えて、自分なりにたくさんのアンケートのアイデアを出すことができたので良かったです。私は、田村町は自然が一番活用できるものだと思うので、竹や湖、いろいろな植物などをたくさん調べて、活用方法を考えていくように努力していきたいと思いました。(1年)
- ・意見や質問をたくさん出し合うことができた。友達や1年生の意見を見て「それやな」と共感しあうことができた。似たような意見が多くて、特に田村町を都会にしようとするようなのが多数だった。ないものねだりで、都会だったら都会ならではのゴミ問題や騒音問題が出てくるだろうな……と思った。今回は、もっと絞って子育てしやすい空間を考えていこうと思う。(2年)
- ・今日は、フィールドワークを振り返って、たくさんのアイデアを出すことができたので良かったと思います。保護者・子育て世代の方への質問も、歩いて実際に自分が感じたことや思ったことを書きました。自分よりも長くこの町で住んでいる方にしっかり質問して、良いアイデアが出せるようにしたいです。(2年)

この授業では、長浜市の都市計画課の方も学生のグループに入って話し合いの様子を参観され、その後感想や貴重な意見をいただいた。内容は、以下のとおりである。(和田さんからいただいた備忘メール)

お世話になっております。長浜市都市計画課の和田です。貴重な授業の時間に見学させていただき、ありがとうございます。先ほど失礼ながら、口頭でお話しした内容を備忘のため、ご連絡いたします。

本日、授業に参加してみると、学生さんのフレッシュな感覚、頭で様々なご意見を記載いただいております。特に、ありがたいと思えたのは、「〇〇したい」といった、主体的に考えていただいた内容です。

(例)・琵琶湖を眺めるカフェを作りたい。

- ・イルミネーションを田村で見たい。
- ・バイオ大学、文教短大、地元で合同運動会がしたい。

アンケートでは、各主体が地域の空間を使って、「〇〇したい」という意見を引き出していただけるとありがたく存じます。このため、質問例としては、「田村で子どもとどんな遊びがしたいですか？」というのは一つの質問になり得るかと思います。

また、学生さんが「〇〇をしたい」というまちづくりのアイデアを示したうえで、企業、保護者、田村町に対し、①状況を聞き、②思いや願望を聞くなど、段階に分けて質問いただくと、社会実験のイメージがブラッシュアップされるように感じました。

本日学生さんに実際記載いただいていた質問例として、

- ・子どもさんはどのような遊びに興味がありますか？
- ・田村町のここが子育てしやすいところは？
- ・コロナ対策のことで子供に対して不十分だと思うことがありますか？
- ・田村町で一番快適なところは？
- ・田村町に来ていただくための一番の課題はなんですか？

といった質問がそれにあたると思います。

授業の中では、1年生と2年生の合同のグループであるので、少し遠慮があったり、リーダーがいなくて惑っているような感じを受けたりしていたが、それぞれが楽しみながら真剣に考えている様子が伺える。アンケートについても、ほとんどの学生が初めての経験であるので、何を聞くべきか迷っていた。交流をする中で、「それもあるね。」「同じことを考えていた。」など、少しずつ硬さが取れてきていた

(4) アンケートを完成させる

前時に作った考えをもとに、様々な意見を集約し、同じような質問をアンケートの文章の形にしていった。話し合うポイントとしては、自分が担当する対象の方に対して

- ・質問の意図が明確になっているか。
- ・回答をする際に回答しやすいものになっているか

の2点を学生たちに指示した。質問項目はランダムに考えているので、質問がまとまってきたら、重要なものから番号を打っていかせた。また、早くできたグループには、お願いの文章も考えさせた。ほとんどの学生が、すべて初めての経験なので悩みながら取り組んでいた。

この授業が終わると、2年生が教育実習に行くので1か月ほどブランクとなる。アンケートについては、最終的に教員が体裁を整え、回答していただきやすいようにQRコードをつけ、グーグルフォームで作成した。田村町の方にはアンケート用紙も用意し、できるだけ多くの方に回答していただけるようにした。

アンケートの質問項目は以下の通りである。(回答選択肢等は略)

① 保育・幼児教育従事者

1. お住まいはどちらですか。
2. 年代を教えてください。
3. 保育・幼児教育の仕事に就かれて、どれくらいですか。
4. 園でどのような仕事をされていますか。
5. 園外活動をされるとき重視するポイントは何ですか。
6. 地域と連携した保育・教育活動を行うために、重視されていることは何ですか。
7. 保育・教育従事者が、保育・教育を行う上で、貴園の周辺地域の魅力は何ですか。
8. 保護者が子育てを行う上で、貴園の周辺地域の魅力は何ですか。
9. 最後に「子育てしやすい、子どもが遊べる公共空間」について、ご意見がありましたら、ご自由にご記入ください。

② 保護者・子育て世代

1. お住まいの地域はどちらですか。
2. 年代を教えてください。
3. 性別を教えてください。
4. 18歳以下のお子さんがいますか。
5. お子さんと一緒に出かける場所はどちらですか。
6. お子さんと一緒にどんな遊びをしますか。
7. 理想的な子育ての環境には何を望みますか。
8. 子育てにおいて、駅や公園等の公共施設には、どのような設備を望みますか。
9. どのような「まち」だったら住みたいと思いますか。
10. 田村駅周辺地域を利用したことがありますか。
11. (あると答えた方) 何を利用されましたか
12. (あると答えた方) 田村駅周辺地域の魅力を教えてください。
13. (ないと答えた方) どのような地域だったら利用したいですか。
14. 最後に「子育てしやすい、子どもが遊べる公共空間」について、ご意見がありましたら、ご自由にご記入ください。

③ 田村町自治会

1. 年代を教えてください。
2. 性別を教えてください。
3. 田村町で生活してどのくらいになりますか。
4. 田村町で生活するきっかけは何ですか。
- 「生まれた時から田村町で生活している」と答えた方へ質問です。
5. 田村町周辺のよいところを教えてください。
- 「田村町以外から転入した」と答えた方へ質問です。
6. 田村町を選んだ理由を教えてください。
7. 田村町周辺地域のよいところを教えてください。
8. 「田村駅周辺整備基本構想」に関心はありますか。
9. 田村駅の利用頻度を教えてください。
10. 田村駅及び周辺の整備に期待する意見はありますか
- 「田村駅及び周辺の整備に期待する意見はありますか。」で「ある」と答えた方に質問します。
11. どのような意見ですか。
12. 子育てを通して田村駅周辺地域を活性化していくために、重要だと思われることは何ですか。
12. 「子育てしやすい、子どもが遊べる公共空間」について、ご意見やご要望がございましたらご自由にご記入ください。

④ 企業の方

1. 住まいの地域はどちらですか。
2. 年代を教えてください。
3. 性別を教えてください。
4. 通勤手段は何ですか。
- 電車で通勤されている方に質問です。
5. 田村駅をどのように感じますか。
- 不便と感じている方に質問です。
6. どこに不便を感じますか。
7. 田村駅に改善してほしいことがあったら教えてください。（自由記述）
8. 田村駅周辺地域の環境で、働きやすいと感じるポイントは何ですか。
9. 田村駅周辺地域の魅力は何だと思いますか。
10. どのような「まち」だったら住みたいと思いますか。
11. 田村駅及び田村駅周辺の整備に期待する点は何ですか。
12. 「子育てしやすい、子どもが遊べる公共空間」について、ご意見やご要望がございましたらご自由にご記入ください。

① 保育・幼児教育従事者、② 子育て世代の方については、1年生の学生と一緒にいくつかの園や施設を訪問し、学生たちが自分たちの思いを伝えながら、アンケートのお願いをしていった。どの園や施設も快く引き受けていただいた。初めは不安そうな学生たちも、引き受けていただいたことで、安どの表情を浮かべていた。

(5) アンケートの結果を知る

実習期間が終わって、アンケートの結果を学生に伝えた。まず、驚いていたのは、多くの方がアンケートに協力していただいたことで、意欲を喚起されたようであった。

実際に「子育てしやすい、子どもが遊べる公共空間」について、ご意見やご要望がございましたらご自由にご記入ください。」の自由記述欄にも多くの意見を寄せていただいた。寄せられた意見については、プリントにして学生に配布した。特に保護者の方は、日ごろから思っておられることが多く、多岐にわたっている。ここにその一部を紹介する。

① 保育・幼児教育従事者

・大学をオープンにしておられますが、土曜日、日曜日でも行事を組んでいただけると、参加しやすいのではないのでしょうか？

② 子育て世代の方

・交通の危険がなく、駐車場があり、元気に思いきり走り回って遊べる場所があればいいなと思います。
・のびのびと自由に遊ばせることができると同時に、大人の目が行き、少し離れた場所でも子供を見守れるよう配慮されている空間。他の家族や、子どもたちで混雑していなくて、遊具の順番待ちや、駐車場待ちなどのストレスが無く過ごせる空間。

- ・乳児期、特にねんね期や立って歩く前の子どもが遊べる場所があると嬉しい。その期間は数ヶ月ではあるがおうち遊び以外にも外に出て刺激になればと思って支援センターなどに行くが歩き回ったり走り回ったりしている子たちの中で遊ばせるにも気を使うのでそういうスペースがある場所だと長い期間利用できるのと思う。
- ・子供が自発的に遊べる施設を望みます。身体を動かしてほしいからと、遠方の大きな公園へ出かけても、すぐに「つまらない。帰る。」と行って騒ぎ、何もせずに帰ることが多々あるので。
- ・幅広い年齢の子どもたち（兄弟姉妹）と一緒に遊べるような施設、設備（親の目が届く同じ空間で遊んでいられるようなところ）があれば、どの子も飽きずに遊んでいられると思うので、子供の多い親は助かるのではないかと思います。
- ・安全に遊べる広い遊び場が欲しい。室内も外も遊べる場所。特に暑い日や雨、雪の日でも思いきり遊べる室内遊び場。遊具が充実した綺麗に整備された公園など。イベントなど増やして欲しい。

③田村町自治会の方

- ・子どもが外で思い切り遊んだり、いろんな事が学べたりする空間が不可欠

④企業の方

- ・子どもが安全に遊べる公共空間ができることを期待しています。
- ・長浜市でこれほど多くの若者が集う地域は他にありません。また、長浜市外から通学している学生も多数で、毎年確実に市外の若者を吸収できている地域も他にありません。商業施設、通学路、自然環境等々、学生に魅力あるまちづくりをしていただくことが、長浜市の課題を解決する近道です。是非とも、重点的な開発を進めてください。

以下は、アンケート結果を聞いてメモした学生のワークシートの一例である。

① アンケートの結果を聞いて、感じたことや考えたことなどを記録してください。メモ程度で構いません。

保育関係者

☆10年以上勤めている

- ☆園の周辺地域の魅力
 - ・自然環境に恵まれている
 - ・安全面
 - ・公共施設の充実

子育て世代・保護者

☆お子さんと一緒に出かける場所

- 1 公園・自然のある場所
- 2 買い物ができる場所
- 3 図書館

☆お子さんとの遊び方

- 1 身体を動かしたふれあい
- 2 絵本の読み聞かせ
- 3 TVゲーム

☆理想的な子育ての環境に望むもの

- 1 子どもを遊ばせられる施設
- 2 安心・安全

企業

☆不便と感じていること

- 1 購買施設
- 2 待合室
- 3 トイレ

☆どのような「まち」だったら住みたい？

- 1 子どもが安心して遊べる施設がある
- 2 交通アクセスが良い
- 3 飲食店や娯楽施設

田村町に住んでいる

☆田村駅及び周辺地域の整備に期待する

- 1 娯楽・商業施設
- 2 駅舎の改善

① アンケートの結果を聞いて、感じたことや考えたことなどを記録してください。メモ程度で構いません。

保育関係者

- ・全体的に保育士の方が気に入っているのは、自然環境だったので、地域の方の協力のおかげだと感じた。

保護者

- ・お子さんと出かけるのに多い場所が、公園など子どもと遊ぶところだったので、公園などをもう少し増やすのもよいと思った。

・アンケート結果を見ても、公共施設についてのことが多かったので、このことについて考えなければいけないと思った。

企業

・田村駅周辺の魅力として、自然という意見がやはり多かった。琵琶湖があるので、自然を大切にするために掃除や自然環境を活かしたイベントなどをするのがよいと思う。

・期待する点として多かった娯楽・商業施設の設置に力を入れたらよいと感じた。

上は、一つの例であるが、アンケート結果や学生の記述からキーワードを見ていくと、

田村町の魅力は

○自然環境が豊か ○琵琶湖が近い ○田舎でのんびりしている ○長浜バイオドームがある ○駅が近い

田村駅周辺の利用のない方に、どのような地域だったら利用したいか

○子どもたちが安全に、保護者が安心できる空間

○トイレ・駐車場のある公園

○親子で利用できる空間

○駅的环境整備

○娯楽・商業施設の充実

などが、どの立場の方からも出て来ていて学生も印象に残ったようである。

以下は、この授業後の学びの感想や次回の課題である。

・保育士目線で一番園外活動の中で重視することは、安全面だとわかりました。以前 SNS で保育士の方が公園に下見に行っている動画を見ましたが、「危険だからやめた」とおっしゃっていたので、下見は必須だなと知りました。安全で自然環境がたっぷりだと子どもたちも飽きずに遊ぶことができるので、そのような場所を今のうちに探しておきたいなとも思いました。田村駅周辺で働く人たちは、電車が不便だという意見があったので、田村駅活性化計画を立てる必要があると考えます。

(1年)

・様々な方からのアンケート結果を見て、共通して“自然が魅力”という声が多かったので、自然を活かして改善していければよいと思いました。交通面では、利便性があるという人、不便という人がおり、利用しているものによって違うのかと感じました。多くの方がアンケートに協力してくださり、優しく力になってくださる方が多い地域だと感じました。

(2年)

(6) アンケートの結果をもとに、活動計画、内容を見なおす

前回の授業を受けて、グループで考えていた活動計画を見直した。内容としては、次の2点である。

・プレゼンテーションの資料を作成するための計画を立てる。

パワーポイントまたはスライドでの作成・トークセッションのための資料の作成

・空間創造事業の実証実験の内容を考える。

国文学科の提案内容(7月時点)

	授業のタイトル・テーマ	キーワード
A	絵本を活用した子育てしやすいまち	子育ての拠点、複合施設
B	花がつながる安らぎのある公共空間	駅、公園、管理でつながる人の交流
C	食と子育ての複合施設を核とした住みやすいまち	市場跡地、子育て、レジャー
D	空でつながる交流のまち	歩道橋、湖－駅－山－施設、安全

子ども学科の提案内容（7月時点）

	授業のタイトル。テーマ	キーワード
A	びわっこ広場	季節ごとの親子の交流行事
B	親子や家族で風鈴づくり	親子、家族で風鈴づくり、田村駅を身近なものに
C	田村山の自然を活かしたTシャツ作り	草木染め、オリジナルTシャツ、フォトブック
D	祭りとスタンプラリー	駅広場で夏祭り、住宅側でスタンプラリー
E	絵本館	段ボール本棚、休憩所、テーマ設定
F	学びと遊びの場	シャボン玉、トランポリン、動物とのふれあい
G	日帰りグランピング	琵琶湖岸を利用、
H	スタンプラリー	宝探し、カレー作り
I	アスレチック	大型商業施設の利用、障がい児に配慮した遊具

（7）活動内容の交流

各グループのテーマや計画を交流した。授業の観点は以下のとおりである。

- ・イベントやトークセッションを意識して、グループで発表の仕方を考える。
- ・発表を聞いて、良いところや改善点を見つける。
- ・自分たちの計画を見直す。

授業後の学びの感想や次回の課題である。ここでは、アプリを使うことの是非やホームページの活用法、参加者（保護者、乳児、幼児、障がいをもった児童など）の様々な視点に立って考えることやそのためのアイデアも出され、田村山や琵琶湖の使い方についての指摘もされた。発表の後、各グループで、もう一度自分たちのテーマを見直し、これからの活動に向けて有効的な話し合いができていた。

- ・イベントで行う内容は簡単に決められたけど、指摘された田村山をどう利用するのかを考えるのはとても難しかったです。2年生の方の意見を今回は聞いてばかりだったので、ダメだったなと思いました。田村の自然をどうやって上手に使用していくのかをこれから詳しく考えていけるよう頑張ります。（1年）
- ・発表を聞いて、アプリの活用がありか、なしかを、メリット、デメリットを挙げて考えた。ウォークラリーを行う場面ややり方などを詳しく決めた。いろいろな状況を想定して意見を出した。いい話し合いになったと思う。（2年）

この授業で春学期は終了し、続きは秋学期9月からに持ち越された。

（8）ワーキンググループの会議

授業と並行して、7月13日にワーキンググループの会議がもたれ、今後の方向や内容等の検討・確認がなされた。その後の主な計画は以下の通りである。

7月14日	・子ども学科会議 → WG案を審議・学科の合意
7月17日	・第三回グループB（チャイルドハウス、田村町）協議会 → グループB企画の決定
～8月下旬	・実行委員会による計画立案 ・都市計画課との調整（担当の住み分け等） ・各業者、団体への意向調査・内申
10月23日（仮）	・空間活用実験（イベント）の実施

学生による実行委員会は、国文学科の学生4名が実行委員とし参加してくれ、7月21日に第1回の実行委員会を開催した。その後は、定期的に実行委員会が開催され、イベントに向けての計画、立案等が行われた。

(9) 緊急事態宣言の発出

子ども学科2年生最後の実習が始まろうとしている8月26日に、新型コロナウイルスの感染者増加に伴い滋賀県に緊急事態宣言が発出された。そのため一部の地域で実習が延期されることとなった。本校でも、秋学期の授業が主に遠隔対応になった。本授業は、1年生、2年生の合同授業で人数も多いので、対面がほぼ不可能となった。9月13日に一度だけ対面での授業を実施し今後の対応を提案した。一部出席できない学生には、リモートで対応した。内容としては、イベントについては実行委員を中心に考えていく。提案については、グループ提案でなく各自がパワーポイント（Microsoft）スライド（Google）などのソフトウェアを使ってグループで考えてきたテーマに沿って動画を作成し提出すること。それをClassroom（Google）に挙げる。各自の動画を見て、感想を交流することとした。緊急事態宣言がいつまで続くのか、学校の授業がいつ対面に戻るのか見通せないで、全て遠隔で対応することとした。この日は、各グループで今後の方針を確認した。ワーキンググループの会議で確認された空間活用実験（イベント）の実施もこの時点では未定となった。学生たちは、急な変更もしっかりと受け止め、スムーズに対応してくれた。

- ・もともと何をテーマにするか、意見がまとまっていたのでスムーズに内容を確認することができた。スライドの作成方法をどうすれば良いのか、みんなで情報を共有することができた。（2年）
- ・テーマは決まっていたので、そこからどんな風に一人一人がスライドを作るのか考えました。次からは、個人で考えながら、オンデマンドで作っていただければ良いと思います。（2年）

(10) Classroom の活用

子ども学科では、第10回以降の授業計画を以下のようにした。

第10回	・空間創造案（スライド）の作成【遠隔：オンデマンド】
第11回	・空間創造案（スライド）の作成【遠隔：オンデマンド】
第12回	・空間創造案（スライド）の作成・原稿を考える【遠隔：オンデマンド】
第13回	・空間創造案（スライド）に付ける効果的な発表原稿を考える【遠隔：オンデマンド】
第14回	・空間創造案（スライド）の完成・クラスルームへ提出【遠隔：オンデマンド】
第15回	・各自が作成したスライドを見て、良い点、改善点などを考え、感想の交流を行う【遠隔：オンデマンド】

空間創造事業のイベントについては、次のように伝えた。

「授業の枠とは別に11月に大学以外の施設を使って実施の予定です。内容等については、国文科の実行委員を中心に、みなさんの提案も活かしながら考えてくれています。イベントは、子どもや保護者と関わる中で役立つことが多く、得るものも多いと思います。後日、日程等が決まれば、みなさんの協力が必要になるので、進んで参加してください。」

各授業に関しては、進捗状況の確認のため簡単な報告を提出させた。その報告に対してコメントを付して返すように努めた。

【取り組んだ内容】先週グループで最終決定したテーマ・企画の詳細を考えました。具体的にどのような活動をどのような順番で行うか、準備物、活動の方法、場所などを考えました。また、スライドを3枚作成しました。誰が見てもわかりやすいようにシンプルにまとめられるように頑張りました。



【コメント】

頑張っていますね。「わかりやすい」大切な視点です。

今回は、日帰りグランピングのことについて、調べました。グランピングの良さやグランピングを通してどのようなことができるのかを知ることが出来ました。スライドの内容を考えることが出来たので、スライドを少しずつ作成していきたいと思います。日帰りグランピングの楽しさや面白さを伝え、興味を持って貰えるような内容を作りたいと思います。班で話し合ったことなどを取り入れて、機会があればスライドを共有するなどをし、進み具合を確認し、分からないところは教えるなどということが出来れば良いと思います。

今回は前回に引き続き課題についてまとめていった。進めたのはそれぐらい。残っているのはラストのまとめ、アニメーション、細かいところの調整、原稿の作成である。やることは多い。最後が近づいてきているので、焦らないといけない。だが、原稿については大体流れは決まっているので早く出来るであろう（多分）。とりあえず自分が納得の行くもの、それが作りきれぬかが大事だと思う。そのため、期限までは粘ります。

時には、作成している中で迷いが生じてきて、質問をする学生も出てきた。下のように、スライドは完成したけれどその工程を考えていくと、もう少し簡単なものにした方が良いのではないかと思いはじめた。グループで考えたことと、今自分が考えていることの齟齬に悩んでいる。このときも、簡単ではあるが返信をしていった。

スライドはほとんど完成しました。今更なのですが、草木染めが煮詰めたりしないといけないので難しそうなので、叩き染めのほうができそうだし葉っぱなど使うので変えようかと思っているのです。グループの人がどんなことを書いているのかわかりませんが1人だけ違うものになってしまうのはいいのでしょうか？今更ですみません。



一人だけ違ってもいいですよ。

草木染も1回で完成するのではなく、何日か楽しめるのもいいのではないかと思います。

以前完成させたスライドをもう一度見直してなおすところがないか確認しました。スライドが文字ばかりだったので、今回、少し画像をいれたりして見ていて嫌にならないように見やすいスライドになるようにしました。また、スライドに合わせて読む原稿を考えました。長くなりすぎないように、接続語などにも気をつけながら考えました。

完成しました。提出させていただきます。
音声も入っていると思います。ご確認よろしくおねがいします。



優しい声のナレーションで、思わず引き込まれました。スライドもよく工夫されていて、とても素晴らしいです。短大のよさも伝わります。NICE！なできばえです。

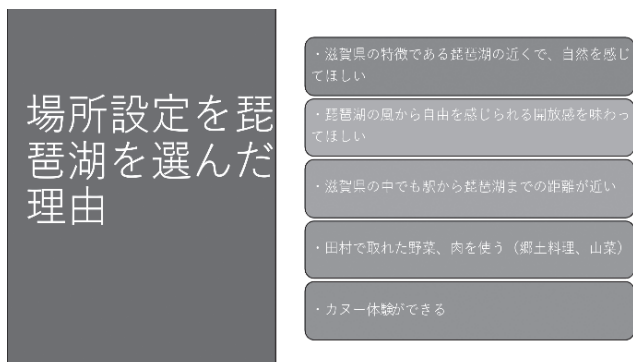
下のように、パワーポイントやスライドを使って資料を作成し、それに音声をつけて動画として提出した。2年生の学生は、授業で取り組んだこともあり、比較的スムーズに進んだようである。1年生の学生は、初めてのものも多くグループ内の2年生にLINE等で尋ねたり、対面授業の時に友だちや教員に聞いたりして完成することができた。

(11) スライドの動画を見て感想の交流をする

学生が作成した動画を Classroom にアップロードし、それを視聴して感想を求めた。以下は各グループの個別の動画に寄せられた感想である。個々の動画については、できばえやナレーションの仕方などで、評価が分かれてくるが、取組



「びわっこ広場」のスライドの一部



「日帰りグランピング」のスライドの一部

んだ内容の一端や学生の学びがわかると思う。これは、一人の感想ではなく、それぞれに別の学生が書いたものである。

	良かった点や感想
A びわっこ広場	アンケート結果について触れていることが良いと思いました。結果を伝えることで、なぜその企画をしたのかがわかりやすいですね。イラストが用いられていて楽しく見ることができました。配置も工夫されていて良かったです。文字も大きく見やすかったです。どこですのかの説明があると良いなと思いました。
B 親子や家族で 風鈴づくり	私は田村町出身ではないので、最初に田村町の魅力スポットを写真付きで説明していてもわかりやすかったです。スタンプラリーのスタンプも各スポットの特徴を表したものにするとという考えがとてもよかったと思いました。
C 田村山の自然を 活かした Tシャツ作り	草木染めでのTシャツ作りは、田村の自然を最大限に活かせる活動だと思いました。そして、田村の良いところを利用する方法としても、この活動は良いと思いました。子どもからしたら少し難易度の高い活動なのかもしれませんが、私はこの活動を通して自然に触れ合う子どもの姿を見てみたいです。自分でオリジナルのTシャツを作る活動は、子どもたちにとっていい思い出となるでしょう。
D 祭りと スタンプラリー	イベントの対象を親子にした理由が母親だけでなく父親にも育児に参加してほしいというねらいがあるということがとてもいい考えだと思いました。完全予約制にしたり、早い時期からイベントのお知らせをしたりと親子が参加しやすいように考えているところがとても良かったなと思いました。
E 絵本館	ミニ絵本館にした理由を明確に書かれていたので分かりやすかったです。内容、工夫する点なども書かれていて聞く人にも伝わりやすいと思いました。室内で親子の時間を大切にしようとする思いが伝わってきました。絵本館は、親子とともに大切な時間を過ごすことができる場所ということを伝えていると思いました。
F 学びと遊びの場	どの年齢の子どもでも楽しむことができる遊びが計画されていたこと、遊びの内容が簡潔にまとめられていて、理解しやすかったところがとても良かったです。また、遊びの中でしっかりと子どもの成長に繋がる目的を含めている点が良かったです。
G 日帰りグランピング	一つひとつの項目について、事細かく話されているので、イメージしやすかったです。それと、琵琶湖と田村町で撮影した景色を見せることで、そこがどんな場所なのかがひと目で分かり、田村を知らない人・琵琶湖に来たことがない人が見たら、その綺麗さに驚くことでしょう。自分で撮影しているというのが尚良い。

H スタンプラリー	アンケート結果をもとに、子育てのしやすい環境として何が求められているのかをまとめていたと思いました。田村町の自然が豊かというメリットを活かした、スタンプラリーと自然を組み合わせたイベントは面白そうだと思います。メリットも多く、デメリットに対しても、対策を考えられているのいいと思いました。
I アスレチック	テーマの障害者も遊べる室内遊び場というのに興味をひかれました。サーキットみたいに色々な遊具を設置してあることが想定されていて、どんな人でも楽しく遊べると感じました。また、施設の工夫点として車椅子を利用されている人でも利用しやすいように、比較的な広めの建築などをされているというのがいいと思いました。

アンケート結果やグループでの話し合いをもとに、提案のスライドをしっかりと作成できていた。本来なら個々の感想を個人に返して交流をする予定であったが、実習等の変更があったため十分にできていない。

国文学科については、11月30日にそれぞれのグループごとにプレゼンテーションが行われた。都市計画課の和田さんも参加していただき、学生の発表を熱心に聞いていただいた。講評については、発表の後に時間が取れなかったので動画で撮影し、学生に配信した。

(12) 実行委員会の活動

松本副学長、本校職員、実行委員が中心となって、イベントの準備を進めていった。新型コロナウイルス下のイベントであるので会場や参加者など、どのようにするのかずいぶん悩んだが、少しずつ新型コロナウイルスの罹患者が減少に向かっていったこともあり表記のチラシが完成した。長浜市の「さざなみタウン」をお借りして、「長浜まちなか キャンプのひろば～子育てに心と体を休める時間を作りませんか～」と、学生が考えた提案を最大限に活かしていく方向で設定をした。内容としては、「あったらいいな、こんな空間」として以下の場を考えた。

「子どものひろば」

子どもたちが安心して遊べる空間を作った。学生がスタッフとして参加し、子どもたちが遊びに夢中になれる場、保護者が安心して子どもたちを預けられる場を設定した。

「ホッと一息のひろば」

本校で実施している子育て支援の「ぶんぶんひろば」に、参加される保護者の方は、保護者同士で交流されることが多い。顔見知りというわけでもないけれど、同じ年代の子どもを育てていく上でちょっとした会話が、子育ての参考になったり、安心材料になったりする。子どもたちが遊んでいる間に、ホッと自分の時間を持てたり、保護者同士がおしゃべりしたりする空間が必要であると考えた。

「子育て応援のひろば」

日頃子育てについて悩んでいることを、専門家に相談できる場を設けた。「子どもの発達」、「就学相談」、「働くことと暮らし」、「ひとり親の支援」など、特別になると敷居が高くて二の足を踏んでしまうこともあるが、このような機会であれば、ちょっと気楽に話をする中でアドバイスなどもしてもら

子育て世代応援!
長浜まちなか
キャンプのひろば

～子育てに心と体を休める時間を作りませんか?～

子どもを遊ばせながら
キャンプ空間でくつろげる
子育て世代に優しい空間。

アンケートにご協力いただいた方には
素敵なプレゼントもよ

【開催日】
2021年11月14日(日)

【時間】
○午前の部 10:00～11:30 (9:30受付)
○午後の部 13:00～15:00 (13:00受付)

【場所】
さざなみタウン1F (〒528-0037 長浜市高田町12-34)

【対象】
0～5歳の子どもと保護者

定員 10組
定員が定数に達したら、締め切ります。

ご予約はこちら

【主催】滋賀文教短期大学、長浜市
【協力】チャイルドハウス田村、合同会社LOCO、
中川造園、田村町自治会

詳細は裏面

滋賀文教短大の学生が、
あったらいいな、こんな空間。

子どもを遊ばせながら、
お父さん、お母さんと遊ぼう!

子育て応援のひろば
専門家に相談でき、くつろぎます。

子どもを遊ばせながら、
自分の時間。キャンプ空間で子育てにホッと一息を。

【イベントについて】
このイベントは長浜市の「田村駅周辺空間活用事業」の一環です。
参加にあたっては、上記事業への協力及び申し込みフォーム記載事項への承諾をお願いします。
【新型コロナウイルス感染症に関する予防について】
新型コロナウイルス感染症拡大防止のご協力をお願いします。
新型コロナウイルス感染症拡大状況等を鑑みて、中止または内容を変更する場合があります。
※ 実行にて37.5度以上の発熱や咳等の症状がある場合は参加をご遠慮いただきます。

お問い合わせ
滋賀文教短期大学
TEL: 0749-61-5315

大学公式HP

えれば子育てへのエネルギーが充たされると考えた。専門家として、チャイルドハウス田村の園長先生、合同会社 LOCO（子育てカフェ）、長浜市子育て支援課母子父子自立支援員、本校教員の協力を得た。

また、「子どものひろば」の運営等に、子ども学科から実行委員が2名とスタッフ6名が参加することとなった。子どもたちが遊ぶ遊具等の選定や消毒、準備等も国文学科の実行委員と協力して積極的に取組んでいった。

3. 長浜まちなかキャンプのひろば 11月14日（日）

予約された9組の家族が参加され、イベントを実施した。当日は、お天気にも恵まれ、子どもたちも楽しそうに遊びに参加してくれた。保護者の方も最初は一緒に活動されていたが、少しすると子どもたちから手も離れ、少しくつろいだ時間が持っていた。「ホッと一息のひろば」「子育て応援のひろば」が有効に活用されていた。



参加された保護者の感想

長浜市の「公共空間」「子育て」「田村駅へ周辺の開発」、滋賀文教短期大学への期待など、ご意見ください
<ul style="list-style-type: none">・コロナ禍で親子共々ストレスをかかえています。イベントやさまざまな人との交流も減っています。今回の様なイベントがあり、子供達の笑顔を見ると親のストレス軽減にもつながります。この様なイベントが増えると嬉しいです。ありがとうございました。・自然と触れ合えるような環境や玩具があるとよい。地域の林業などと連携して整えていくと、地域とのつながりや関心ももってもらえる。・今回みたいに20分くらいでも見てもらえる空間があるのはとてもありがたかったです！ママ友に話したら私も行きたかった！！と言っていました！自宅保育で年子を育てていますが想像以上に大変です。平日に同じ空間でもいいし、今回みたいな別部屋でもいい、とにかく15分でもコーヒーが飲める時間があれば日々の育児ももっと頑張れます！なので、定期的にやって欲しいです。一時保育の無料券を長浜市では配布されていますが、慣れない環境に何時間も行かせることになるので子どもも親も最初のハードルが高いと思います。今回みたいな短時間の方がありがたいです！優しいお姉さん方に遊んでもらえて嬉しそうでした！本当にありがとうございました。・外に出るきっかけにもなり、大人も子どもも色々な方々と交流できとても助かっています。また生徒さんたちの頑張っている姿を見て、励みにもなります。色々なイベントを企画してくださり、いつもありがとうございます。これからも楽しみにしています・手足口病やノロウイルスなど、手洗いが有効な病気が流行る時期です。一定時間ごとに手洗いを勧める、スタッフも接する家族が変わる毎に手を洗うなど対策をぜひご検討ください。

参加した学生の感想。

学生としてイベントに参加した感想
<p>自分たちのイメージを実際に形にすることで、そこで子どもたちが実際に遊ぶ姿を見ることができ、その姿からたくさんことを学びました。私がこのイベントで学んだことは、子どもが実際に遊ぶことを想定しながら、遊びの連続性を意識して環境を構成することの大切さです。今回の空間のテーマが「まちなかキャンプのひろば」ということで、子どもが遊ぶ場所にもテントを置くと、企画の説明時国文学科の方々に聞きました。そこで、私達は「テントがあるならば子どもたちもキャンプ気分が楽しめるような環境をつくらう」と思い、バーベキューセットや焚き火、おままごとセットなどを準備しました。テントがあるだけでも十分テンションは上がると思ったのですが、テントからキャンプ遊びをイメージし、子ども自ら遊びを展開させていくためには、十分な環境が必要であると思ったからです。また、</p>

キャンプを知らない子どもたちにも、「キャンプって楽しいんだ!」と思ってもらえるような関わりや環境を用意したいと思いました。準備したものを配置するときにも、大きいテントの周りにキャンプをイメージできるように準備したものを配置し、子どもたちが遊びを展開しやすいように実際に子どもの動きを想定し、みんなで話し合いながら工夫しました。反省点として、0～1歳の子どもが遊べる環境があまりなかったと思います。企画段階では、「0歳児の子どもは保護者の方がずっといっしょにおられるかもしれない」と思っていたため、十分な環境を用意することができませんでした。実際に行くならば、マットを十分に敷いたところを用意し、眠たくなっていた子どももいたので、布団などがあると良いのではないかと思います。また、おむつの交換場所、排泄の援助、衛生面、おもちゃを口に運ぶときに危険はないかなどの配慮が必要であると感じました。(2年)

実習や授業で環境について学ぶことは多くありましたが、実際に構成することは少なかったのでいい機会でした。また、テーマがありそれに沿いながら考えていくことやテーマに関連することの発想をふくらませることが難しくもありましたが、楽しかったです。前日の準備では事前に考えていた環境構成の図案がありましたが、実際の部屋の大きさやテントの大きさなどで変更箇所がありました。変更したからこそ子どもたちの遊びがつながり、良くなったところがあったなと思いました。また、図案がありながらも変更箇所があったのでその場で考えることがあり、「こうしたほうが良いかな」「これしてみようよ」など新たなアイデアがたくさん出て、やっていた楽しかったです。さらに、実習で気をつけるようになった安全面に関しても「ここは子どもがこういう動きをするかもしれないから」など子どもの動きを予想しながら考えていくことができました。実習の経験を今回のイベントに活かすことができたことがとても良かったです。子どもたちが楽しんでもくれる空間として考えるだけでなく、安全面もしっかりと考えることで保育者の立場として少しは立てていたのではないかと保育者としての自覚と自信に繋がったように感じました。環境構成を考える際に様々な子どもたちの動きを考えましたが、大きな怪我もなく無事にイベントを終えることができて本当に良かったと思いました。また遊びが偏ることもなく、まんべんなく子どもたちが楽しみ、遊びもつながっていたので嬉しかったです。目の前の子どもと関わっていたので、全体を見渡すことが余りできなかったのが少し残念でした。全体を見られなかった点では保育者としてはもう少し気をつけなければいけなかったなと思いました。遊びの全体として年齢設定が高めなようにも感じましたが、低年齢の子どもたちをほかの学生の話の聞くとお絵描きや他の子が遊んでいるところを見て楽しむことがあり、それはそれで目で見えて知る、楽しむ、経験になったのではないかと思います。私はぶんぶん広場を実際に地域の人が参加した状態でしていないので、他の学生がどのように子どもたちと接しているのかを見ることはなかなか新鮮でした。また関わり方や準備の際の動いている姿や働きかけなどでも、学生同士でも学ぶことができたと思います。(2年)

学生から見た参加された保護者の様子

コーヒーが飲めることを嬉しく思っておられ、「どこで頂けるんですか?」と聞かれた時に、わたしはコーヒーが飲めることを知らなかったのが、案内が出来ませんでした。このことから、学生内、運営スタッフ内でしっかりと情報共有することが大切だと感じました。また、子どもを預けて別の場所に行けるということにとっても魅力を感じておられ、とても感謝して頂きました。(2年)

3人のお子さんの保護者の方が「リフレッシュできました!」と、とてもいい笑顔で言ってくださったことが印象に残りました。ゆっくりコーヒーが飲めたことをとても喜んでくださっていました。「またやってほしいです」と言ってくださり、嬉しくなりました。また、0歳児(10ヶ月)の保護者の方が「ちょっと私席外しても大丈夫ですか?」とおっしゃられ、「大丈夫ですよ!」と笑顔で答えると、ほっとしたような表情を浮かべられたことです。戻ってこられたときに、お子さんが泣いていたことから、愛着を実際に目の前で感じるができ感動しました。「大丈夫だったね。保育園も行ってみようか。」とお子さんに語りかけておられたことから、「預ける」ということへの不安が少なくなり、保護者の方自身が安心されたのではないかと感じました。ずっと一緒にいる子どもを預けるということは、やはり緊張もされると思いますし、不安が大きいと思います。その不安が、今回のイベントで短時間ではありましたが、子どもが遊んでいた、楽しんでいたと実感できることで、安心してくださったのではないかと思います。

今回のイベントでは保護者の方が子どもを預け、ゆっくりと「何もしないことを楽しむ」ということが目的でした。実際に、保護者の方が戻ってこられたとき、「ゆっくりできた!」「羽を伸ばせました」と言ってくださり、とても嬉しかったです。保護者の方も、子どもも楽しめる空間が実現できたのなら、とても素晴らしいと思います。(2年)

参加された親子の様子では、保護者の方とお話する機会がなかったので、あまり分からないのですが、保護者が相談員とお話されている時に、子どもがそっちの方に行ったので、一緒について行った時に保護者はリラックスして相談しているように見えました。また子どもがやっと部屋の入り口を見つけて入れた時に、やっぱり可愛いなというふうに思われたように感じました。

(2年)

4. まとめと考察

「くらしと地域」の授業で長浜市都市計画課「田村駅周辺空間活用事業」の「子育てしやすい子どもが遊べる公共空間」について提案することになった。この授業は先にも述べたように、1年生と2年生が一緒に受講することになった。

初めにシラバス作成の段階で考えたのは、講義形式の授業ではなく学生が自ら考え、アイデアを出し合いながら、学びを深めていけるということであった。学年別のグループを編成するよりも、学年混合のグループでアイデアを出し合いながら進めていく方が互いの成長につながるのではないかと、グループを編成した。授業が始まった当初は、互いに遠慮がちで、どちらかと言えば2年生が引っ張っているようであったが、1年生も次第に自分の考えや思いをしっかりと伝えていきたいと考えるようになってきた。グループの活性化が図れてきていた。

2年生の実習中を利用してアンケートを実施した。子育て世代だけでなく、田村町の自治会の方や企業関係者、保育従事者と多くの世代、立場の違う方の見方、考え方を直接知ることができたのは、貴重な経験であった。自分たちの考えを客観的に見直すことができ、よりよいものにしていこうと意欲的な取組につながった。

提案のスライド作成とイベントの準備を計画し、秋学期に実践していこうとした矢先に緊急事態宣言が発出され、対面授業ができなくなってしまった。9回目の授業の中で、今後の授業計画について話したとき、計画途中のイベントができないことは大変残念がっていたが、実行委員会で計画することや個人のスライド作成について納得して、スムーズに移行することができた。1年生にとっては、2年生の存在が頼もしく感じられていた様である。グループによっては、LINE等を使って相談しながら遠隔授業に取り組んでいた。ICTの活用についても、進捗状況を尋ね、その報告にコメントを返すことで、学生の意欲を喚起することができていた。1年生は不慣れな部分もあり動画作成に不安を覚えていたが、得意な学生や2年生、教員のアドバイスによりしっかりと作成することができた。技術の上でも進歩が見られた。内容としては拙い部分もあるが、自分たちがいろいろな方の意見を参考に作り上げてきたことは大きな自信になった。

イベントでも、学生たちのアイデアを基に実行委員会を中心に原案を考え、実施できたことは大きな成果であり、国文学科と子ども学科が互いの良さを認識できたのも成果であると考えている。

最後に、この授業に協力いただいた長浜市都市計画課、田村町自治会、チャイルドハウス田村をはじめ、下記の多くの園、企業、施設の方々、イベントに参加していただいた保護者のみなさま、子どもたちに感謝いたします。ありがとうございました。

(※1) 長浜サイエンスパーク (ホームページより)

「新規バイオ産業等拠点の形成」「産学交流拠点の形成」「人材の育成」「自律した産業拠点の形成」という4つの柱をコンセプトに、平成14年に長浜サイエンスパークが整備されました。バイオテクノロジー関連産業の集積をはかるとともに、ベンチャー企業などのバイオ産業創出システムの構築を図り、研究開発から生産まで行える新規バイオ産業拠点の形成を目指しています。また、バイオ産業創出においては大学等の研究機関の持つ情報、研究成果を技術移転し事業化することが重要であることから、隣接する長浜バイオ大学とともに産学交流拠点の形成をめざします。

www.biobiz.jp/nbic/outline/science-park.html

・アンケート及びこの授業に協力いただいた園、企業、施設等

【保護者・子育て世代、保育・教育従事者】 社会福祉法人石龍会 チャイルドハウス田村

長浜市長浜南認定こども園・長浜市六荘認定こども園・社会福祉法人檸檬会 レイモンド長浜南こども園
社会福祉法人愛悠ももの会 ほいくえんももの家

【保護者子育て世代】 長浜市保健センター・長浜市市民課・サンサンランド子育て支援センター

【企 業】 長浜サイエンスパーク・長浜市地方卸売市場（株）

【地 域】 田村町自治会

【その他】 長浜市教育委員会幼児課 子育て支援課 健康推進課 市民課 商工振興課

・イベントに協力いただいた施設・企業等

さざなみランド・田村町自治会・社会福祉法人石龍会 チャイルドハウス田村、合同会社 LOCO・中川造園
長浜市子育て支援課、都市計画課

小林雅彦 子ども学科教授・教科教育

雨森雅哉 子ども学科講師・発達心理学